

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291100184		
法人名	有限会社 在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい島郷	ユニット名	2Fフロア
所在地	静岡県沼津市下香貫清水2135		
自己評価作成日	平成28年2月8日	評価結果市町村受理日	平成28年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosyoCd=2291100184-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成28年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との関係性を強く持ち、地元のお祭りに施設駐車場を使っていたり、地元のボランティアの方々をお招きして踊りや歌を披露していただいたりとながりをもち、地域とともに歩んでいける施設を目指しています。
外出を積極的に行い、ご入居者様の社会からの孤立感の軽減と気分転換を行っています。季節ごとのイベントはもちろん、1日1日を大切な日々と認識し室内レクリエーションのバリエーションを多彩に持ち、飽きのこない笑いの絶えない施設運営をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所理念「愛に包まれ、笑顔あふれる、セカンドライフ」の実現に向け真摯に取り組んでいる。オープンからまもなく1年、様々な初体験に正面から向き合い、「振り返ってみたら思いがけない地域交流や利用者の笑顔がうまれていた」職員にとってはそんな日々であったろうか。今を楽しんでいただくために外出を優先し、時々笑顔の沢山カメラに収めて家族や地域の方々にも見て頂けた。「自分達に出来る事は何か」を全職員で一生涯懸命に考えて来た。納涼祭には200名の方が来所し関心を寄せて下さり、その後は相互に協力し合う関わりの中で地域密着型の暮らしが支えられてきた。2年目に向け、更に組織面での充実が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を事業所内のに掲げ、毎朝申し送りの際に斉唱している。 運営会議にて取り組みとして発表しました。	「愛に包まれ、笑顔あふれる、セカンドライフ」を事業所の理念として掲げ、毎月各フロアで課題を決めて取り組んでいる。利用者の笑顔を写真に撮りためている中で、利用者が職員の愛に包まれていることの気付きを得られた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員を地元の方を多く採用、その中で親戚・知人つながりでボランティアや幼稚園と交流イベントを開催している。 周辺散策・店舗への買い物へでかけている。	自治会の理解も良く、入会時にはプレゼンテーションの機会もいただいた。挨拶の折に近所の苦情を聞き取るなど信頼の構築に努めている。利用者と地域が相互に関心を持ち、イベントでの協力等が利用者の楽しみに繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所主催のお祭りを開き、200名を超える方々にお越しいただき、模擬店・大道芸を楽しみながら地元の方と交流いたしました。 地元自治会に駐車場を使って頂き、地元の納涼祭を開催、参加させていただきました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご入居者様御家族様、地域包括、地元の自治会長様をお誘いし会議を行っている。 得られた情報は事業所内で共有させて頂きサービスの向上を図りました。	併設の小規模多機能型事業所と合同で、順調に開催している。グループホームと小規模事業所の役割に基づきそれぞれの取り組みを報告しており、地域から得た情報は利用者の楽しみへと活用している。	出席できなかった家族や職員が会議の内容を共有できるよう議事録の配布や回覧を一考されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新規でわからないことも多く相談や問合せをしご入居者様、御家族様が困らないように配慮している。 生活保護の方の情報を定期的に報告している。	各種報告書の提出で長寿福祉課へ出向いたり、社会福祉課と連携して利用者の生活を支えている。実地指導もあり、共に介護福祉の向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていません。 ご入居時に御家族様へも説明している。 フロア出入り口は施錠をしています。御家族様へは安全配慮のためとご理解を頂くようにお話させていただいています。	入職時の研修により職員は良く理解しており、実践でも身体拘束はない。スピーチロックに関して時に見られる場合には、個別に呼んでスピーチロックに該当すると気付くように指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロアミーティングを毎月開催、フロアでの困りごとを統一介護について個別に話し合う機会を持っている。 会社全体是の『虐待』の取り組みにならない、研修への参加、伝達講習をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人が付いている方は現時点でいません。1名の方が検討しており、後見人制度は知っているが詳しくは理解はない。管理者・職員の理解が必要となってきた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書は御家族様と読み合わせを行い理解を求めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置しているが、投稿は現時点でもなし。面会時に要望や不備がないか面と向かってお聞きさせていただいています。ホームページ上でもご意見を寄せられる仕組みとなっております。	開設間もない時期に家族から寄せられた意見を謙虚に受け止めて対策を講じた。以後、面会時には管理者が家族から意見を引き出して事業所全体で反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気軽に話ができる環境づくりをし、個別に意見を聞けるように声かけを行っています。代表の電話番号も緊急連絡網に入れ、電話ができる状況になっています。	全体会議やフロア会議で情報共有を図り、定期的な個人面談で意見を聞いている。また機会を捉えては今後の希望や展望等話し合っており、管理者と職員が相互に気付きを得ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の条件に合わせ勤務を配慮しています。キャリアパスにて評価、能力や業務の責任で給与を決めています。資格のとり方、職位について周知し向上心につなげています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	未経験者が多く、順次初任者研修を受ける様に手配している。者に研修に出席できるように勤務調整し、力量や職責で受講する研修を受けるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関係各所が主催で開催する『講習』『交流会』のお知らせを周知し、参加している。（地域密着型連絡会議・地域の関係施設の開催する交流会等）		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様・ご家族様と入居時の面談や、入居から暫くは困っていることなどを伺いに訪室している。御家族様には面会時にお話を伺っている。出来る限りご本人様や御家族様のご要望に添えるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の相談や面談の際やご入居直前にご家族様と密にお話する時間を作り、疑問や不安が無いように一つずつ解決するように心がけて接している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	はじめはうまく計画できなかったが、現在では情報収集をしっかり行い、必要なサービスや援助の初期を決定し、援助しながらその人にアセスメントしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事、掃除や洗濯などを無理強いなどせず、やって頂ける方にはその方に合わせた家事をお願いしています。できなくてもお気持ちを大切にしながら生活している関係を満足感に変えることができるようにも配慮しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	プラスイメージを持てるように楽しめたことなどを多くホームページや面会時にお伝えしていますが、ご家族様の意向に沿い、援助をしているため共に支える関係性は出来ていない感があります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会について、入居時にご家族様が了解であれば、ご友人様の面会も制限していないことをお伝えしています。今まで買い物に行っていた人は職員と共にでかけご自身の目と手で確かめて買い物をしていただいています	入居時にキーパーソンから親しい方々について伺っており、友人等の訪問を歓迎している。みかん狩りの仕事を懐かしむ利用者の話から、イベントとしてみかん狩りを行ない、他の利用者も一緒に楽しんだ。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲が良い悪いを把握し、問題になる前に関わりを持ち解決している。 個別対応と、全体対応にメリハリをつけている。 (レクでもやりたくないものがそれぞれある事を理解している)		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	2名の方が転居をされましたが、お亡くなりになっているためそれ以上の関わりは持っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居時にその方を知る事から始め、こまめに御家族様・御本人様とお話をして個別の対応を行っています。	入居時に確認している家族等からの情報や希望のほか、日々利用者と接する中での声掛けや言葉・表情・仕草等により思いを感じ取り、申し送りや会議の場において職員間での共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様・御本人様と入居前にお話を伺い。今までどのような暮らしをしてきたか、どのようなお困りごとがあったのか、体調面に関してには泊する事を行っています。担当ケアマネ様が居れば情報提供を受けます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日健康チェックを行い数字にて健康状態の把握と、表情や訴えなどの他覚的にも観察しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本は月に1回フロア会議にてモニタリングしています。状態や状況の変化にてご家族様や医療連携先と相談し方向性を決めているが、まだ基礎の部分が深く、踏込んだ事や身体面ではあまり計画には反映出来ていない。	毎月のフロア会議において、日々の介護記録等をもとにしてモニタリングを行っている。定期的に介護計画を見直しているほか、急変時にはそのつど介護計画を作成している。	介護計画の作成に当たっては、できる限りでの家族等との話し合いや事後の確認が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	夜勤者から日勤者、日勤者から夜勤者へ申し送りにて情報共有をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様や御家族様よりの情報で、その方のニーズが施設で賄うことのできることを判断し、我々も御家族様の1人として様々なお手伝いを行うようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様の今までの暮らしを把握し、その方に合わせ身体と心が安心して暮らせるようにと、その方が輝けるように得意なことを把握し行って頂き賞賛される環境づくりをしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	心身の状態を把握し、早期に適切な医療を受けられるようにしています。状況によっては御家族様にリアルタイムで状況を報告している。	かかりつけ医の受診は利用者と家族の希望を取り入れているが、協力医の受診が大半である。協力医は毎月2回の往診があり、適切な医療を受けられるように支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の訪問の際、変化を報告し情報共有をしています。緊急時は医療連携の看護師に報告し指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に現病歴はもちろん既往歴、注意事項を入院先に提供しています。入院時に必要な物品など、こまめに訪れ入院先病院様に迷惑が掛からないように準備・追加をしています。退院時期に関しても早期に施設でできる範囲で受け入れるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重篤なケースは今まで2件ありました。状況変化で御家族様に報告し方向性を決定、適時に医療連携先医師と話し合う機会を作り報告性を決めた。いずれも施設では対応困難で病院を選択し入院後お亡くなりになりました。	重度化した場合や終末期のあり方については入所時に意向を確認している。その時を迎えた時点で改めて承諾書を求め、医師や看護師・家族との総意で協力し、支援に取り組むことにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変について命が切迫している場合は救急車優先、他は管理者の指示にて行動を設定し、ルール通りの行動ができています。応急手当はできている、救命処置についてはスキルが低く2/2に研修開催し底上げを行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成、防災委員会を中心に定期的に訓練を行っている。(通報訓練・避難訓練)まだ夜間訓練は実施していない。地域での活動は沼津市よりの訓練で報告訓練を行っているが、地域では実施できていない。	災害対策マニュアルがあり、防災委員会を中心に年2回の訓練を実施しているほか、水や食料等の備蓄も確保している。近隣の方に対しても協力をお願いしている。	地域での防災や夜間訓練の実施が望まれる。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	診察や肌を露出させる援助を行う際はしっかりと戸を閉めたり、パーテーションで配慮している。ご入居者様の呼び方も全て『さん』づけに統一、言葉遣いも十分に配慮している。出来ていなければ個別に指導をしている。	言葉かけや敬語の使い方については、その利用者に合った言葉遣いを徹底させている。特にトイレの介助については、細心の気遣いや個人記録にも注意が払われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や不満のお話は表出しやすい人間関係を作っている。可能な事は早急に対処し、不可能な事には『何故』をしっかりと説明し納得して頂けるようにお話しています。事故決定ができるように『待つ』事もしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れや、身体を動かす事の基本ペースはありますが、業務的ペースにならないように心がけている。できる限りの制限を持たせないようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	目標はいつ外出しても恥ずかしくないようにを目標としています。ご入居者様のペースに合わせる事もあり乱れることもあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べる事は楽しみの一つと考え、季節ごとのイベントや誕生日等特別な日に見合った食事ができるように配慮しています。外食や皆で作ったもの様々に楽しんで頂いています。	3度の食事は介護高齢者向けの宅配食を利用しているが、季節ごとのイベントや誕生日には利用者の希望を取り入れ、外食等の支援が行われている。利用者に合ったキザミ食にしたり、利用者と職員と一緒に食事の片付けを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの摂取量を把握して、その方にあった食事量を提供、水分量は1日1500ml以上を目標としています。夏場の外出・入浴後にはポカリスエットを提供し失われた水分とミネラルの補給をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な歯科医師の往診、歯科衛生士の口腔ケアを行っています。毎食後に全員に口腔ケアをして頂き確認をしています。夜間に入れ歯をしている方は洗浄剤につけることとしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立している方に関しては排泄の内容を把握させていただくためにトイレに行った際に排尿・排便の有無を聴取しています。失敗のある方は個別にリハビリパンツ日オムツ、パットで対応しています。声かけ排泄誘導もしています	個々の排泄パターンを把握し、利用者のちょっとした動作や訴えを見逃さず、声かけをしてトイレに誘導するなど、自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝カルピスを摂取して頂き乳酸菌を接していただいています。便秘傾向の方に関しては水分摂取量のチェックを行い、便の性状や訴えを把握し必要時に医療連携医師に相談し下剤や柔下剤の処方を依頼しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回入浴できるように週間予定としてプランしています。どうしても入りたくない方に関しては時間を変え、人を変え無理強いしないように対処、入浴を見送る際は清拭に切り替えたり保清を維持しています。	週2回以上を基本としている。入浴拒否者には時間の変更や職員を変えるなどの措置のほか、足浴や清拭を行って利用者が常に清潔で暮らせるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合わせ入眠介助を行っています。歩行不安定も呼吸抑制も考えられる為、出来る限り入眠導入剤を使用しない自然な入眠をして頂いています。入眠を無理に促さず自由に過ごしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに沿って服薬チェックリストを用い間違いのない与薬をしています。お薬のセットは薬局または管理者が行い情報共有もリアルタイムで行っています。用法・容量に関して職員が細部までは把握できていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の今まで楽しみにしていたことを把握し、継続できるように整えること。楽しみを拡大できるように援助新たな楽しみを見つける。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候を参考に外出を計画している。長距離の歩行が可能の方、近所までの方等お体の耐久性毎に散歩を実施している。遠距離の外出は施設車両にて行っている。(11月～3月は感染症対策で自粛している)御家族様との外出も制限なく行われています。	天気の良い日には、近所の散歩や庭のベンチでの日光浴などの支援を行っている。桜見物など季節ごとの外出には施設の乗用車で出かけたり、家族との外出も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持に関しては基本的にはお持ち頂かない様にしていますが、どうしてもとの方は少額のお金をお持ちいただいています。日常品の買い物と一緒に選び購入しても頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じてTELやお手紙をカいたりすることができるよう援助しています。その旨をご本人様や御家族様にお伝えしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝今日部分について掃除をしています。時にはご入居者様のお手をお借りし清掃しています。転倒防止の観点から危険物（コード類、水等）を除去しています。音楽もみなさんのその時その時のご希望に音楽を用意してリラックスできる空間づくりをしています。	共用空間は、常時適温に保つことや採光に注意が払われている。季節や行事に合わせて掲示物や飾りつけを行ったり、利用者の希望の音楽を流してリラックスできる環境に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	掲示板にイベントや外出の写真とコメントを居れ皆さんで思い出せる様に配慮しています。ご入居者様の中でも気の合う合わないがあり共有部での席順を配慮、机によって趣味の内容が違う様に配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人や御家族様と相談し、使い慣れたなじみのものをおいて頂けるようお願いをしています。足元の障害や防火に問題がなければどのようなものでも受け入れています。	本人が使い慣れた物や、馴染みのある物を持ち込むよう家族にも協力を求めている。中には仏壇や家族の写真等があり、利用者それぞれが居心地よく過ごせる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お部屋が解らなくなる方には目線にお名前が見えるように部屋の前に表示させていただいています。危険物（足元・洗剤・刃物・紐類）が目につくよう、手が届かないように、刃物は数もチェックし安全な環境を提供。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291100184		
法人名	有限会社 在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい島郷	ユニット名	3Fフロア
所在地	静岡県沼津市下香貫清水2135		
自己評価作成日	平成28年2月8日	評価結果市町村受理日	平成28年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail.2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2291100184-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成28年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との関係性を強く持ち、地元のお祭りに施設駐車場を使っていたり、地元のボランティアの方々をお招きして踊りや歌を披露していただいたりつながりを持ち、地域とともに歩んでいける施設を目指しています。 身体介護の必要が高い方を受け入れ、お身体に合わせた介護の提供をしています。 季節ごとのイベントに力を入れ、季節感を失わない様にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を事業所内のに掲げ、毎朝申し送りの際に斉唱している。 運営会議にて取り組みとして発表しました。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員を地元の方を多く採用、その中で親戚・知人つながりでボランティアや幼稚園と交流イベントを開催している。 周辺散策・店舗への買い物へでかけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所主催のお祭りを開き、200名を超える方々にお越しいただき、模擬店・大道芸を楽しみながら地元の方と交流いたしました。 地元自治会に駐車場を使って頂き、地元の納涼祭を開催、参加させていただきました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご入居者様御家族様、地域包括、地元の自治会長様をお誘いし会議を行っている。 得られた情報は事業所内で共有せて頂きサービスの向上を図りました。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新規でわからないことも多く相談や問合せをしご入居者様、御家族様がが困らないように配慮している。 生活保護の方の情報を定期的に報告している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていません。 ご入居時に御家族様へも説明している。 フロア出入り口は施錠をしています。御家族様へは安全配慮のためとご理解を頂くようにお話させていただいています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロアミーティングを毎月開催、フロアでの困りごとを統一介護について個別に話し合う機会を持っている。 会社全体是の『虐待』の取り組みにならない、研修への参加、伝達講習をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人が付いている方は現時点でいません。1名の方が検討しており、後見人制度は知っているが詳しくは理解はない。管理者・職員の理解が必要となってきた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書は御家族様と読み合わせを行い理解を求めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置しているが、投稿は現時点でもなし。面会時に要望や不備がないか面と向かってお聞きさせていただいています。ホームページ上でもご意見を寄せられる仕組みとなっております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気軽に話ができる環境づくりをし、個別に意見を聞けるように声かけを行っています。代表の電話番号も緊急連絡網に入れ、電話ができる状況になっています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の条件に合わせ勤務を配慮しています。キャリアパスにて評価、能力や業務の責任で給与を決めています。資格のとり方、職位について周知し向上心につなげています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	未経験者が多く、順次初任者研修を受ける様に手配している。者に研修に出席できるように勤務調整し、力量や職責で受講する研修を受けるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関係各所が主催で開催する『講習』『交流会』のお知らせを周知し、参加している。（地域密着型連絡会議・地域の関係施設の開催する交流会等）		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様・ご家族様と入居時の面談や、入居から暫くは困っていることなどを伺いに訪室している。御家族様には面会時にお話を伺っている。出来る限りご本人様や御家族様のご要望に添えるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の相談や面談の際やご入居直前にご家族様と密にお話する時間を作り、疑問や不安が無いように一つずつ解決するように心がけて接している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	はじめはうまく計画できなかったが、現在では情報収集をしっかり行い、必要なサービスや援助の初期を決定し、援助しながらその人にアセスメントしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事、掃除や洗濯などを無理強いなどせず、やって頂ける方にはその方に合わせた家事をお願いしています。できなくてもお気持ちを大切にしながら共に生活している関係を満足感に変えることができるようにも配慮しています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	プラスイメージを持てるように楽しめたことなどを多くホームページや面会時にお伝えしていますが、ご家族様の意向に沿い、援助をしているため共に支える関係性は出来ていない感があります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会について、入居時にご家族様が了解であれば、ご友人様の面会も制限していないことをお伝えしています。今まで買い物に行っていた人は職員と共にでかけご自身の目と手で確かめて買い物をしていただいています		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲が良い悪いを把握し、問題になる前に関わりを持ち解決している。 個別対応と、全体対応にメリハリをつけている。(レクでもやりたくないものがそれぞれある事を理解している)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居された方に対してはグループ内では行っていますが、社外施設では行っていない。 入院中は2日に1回訪問し経過の観察と困りごとに対して対応しています。退院後の事について相談させていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居時にその方を知る事から始め、こまめに御家族様・御本人様とお話をして個別の対応を行っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様・御本人様と入居前にお話を伺い。今までどのような暮らしをしてきたか、どのようなお困りごとがあったのか、体調面に関してにもは泊する事を行っています。担当ケアマネ様が居れば情報提供を受けます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日健康チェックを行い数字にて健康状態の把握と、表情や訴えなどの他覚的にも観察しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本は月に1回フロア会議にてモニタリングしています。状態や状況の変化にてご家族様や医療連携先と相談し方向性を決めているが、まだ基礎の部分が多く、踏込んだ事や身体面ではあまり計画には反映出来ていない。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	夜勤者から日勤者、日勤者から夜勤者へ申し送りにて情報共有をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様や御家族様よりの情報で、その方のニーズが施設で賄うことのできることを判断し、我々も御家族様の1人として様々なお手伝いを行うようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様の今までの暮らしを把握し、その方に合わせ身体と心が安心して暮らせるようにと、その方が輝けるように得意なことを把握し行って頂き賞賛される環境づくりをしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	心身の状態を把握し、早期に適切な医療を受けられるようにしています。状況によっては御家族様にリアルタイムで状況を報告している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の訪問の際、変化を報告し情報共有をしています。緊急時は医療連携の看護師に報告し指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に現病歴はもちろん既往歴、注意事項を入院先に提供しています。入院時に必要な物品など、こまめに訪れ入院先病院様に迷惑が掛からないように準備・追加をしています。退院時期に関しても早期に施設でできる範囲で受け入れるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重篤なケースは誤嚥事故にて窒息でお亡くなりになってしまったケースと、下血で緊急搬送したケースで御家族様と連絡を密に取り方向性を決め、チーム内でも情報の共有をいたしました。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変について命が切迫している場合は救急車優先、他は管理者の指示にて行動を設定し、ルール通りの行動ができています。応急手当はできている、救命処置についてはスキルが低く2/2に研修開催し底上げを行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成、防災委員会を中心に定期的に訓練を行っている。(通報訓練・避難訓練)まだ夜間訓練は実施していない。地域での活動は沼津市よりの訓練で報告訓練を行っているが、地域では実施できていない。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	診察や肌を露出させる援助を行う際はしっかりと戸を閉めたり、パーテーションで配慮している。ご入居者様の呼び方も全て『さん』づけに統一、言葉遣いも十分に配慮している。出来ていなければ個別に指導をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や不満のお話は表出しやすい人間関係を作っている。可能な事は早急に対処し、不可能な事には『何故』をしっかりと説明し納得して頂けるようにお話しています。事故決定ができるように『待つ』事もしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れや、身体を動かす事の基本ペースはありますが、業務的ペースにならないように心がけている。できる限りの制限を持たせないようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	目標はいつ外出しても恥ずかしくならないようにを目標としています。ご入居者様のペースに合わせる事もあり乱れることもあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べる事は楽しみの一つと考え、季節ごとのイベントや誕生部等特別な日に見合った食事ができるように配慮しています。外食や皆で作ったもの様々に楽しんで頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの摂取量を把握して、その方にあった食事量を提供、水分量は1日1500ml以上を目標としています。夏場の外出・入浴後にはポカリスエットを提供し失われた水分とミネラルの補給をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な歯科医師の往診、歯科衛生士の口腔ケアを行っています。毎食後に全員に口腔ケアをして頂き確認をしています。夜間に入れ歯をしている方は洗浄剤につけることとしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立している方に関しては排泄の内容を把握させていただくためにトイレに行った際に排尿・排便の有無を聴取しています。失敗のある方は個別にリハビリパンツ日オムツ、パッドで対応しています。声かけ排泄誘導もしています		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝カルピスを摂取して頂き乳酸菌を接していただいています。便秘傾向の方に関しては水分摂取量のチェックを行い、便の性状や訴えを把握し必要時に医療連携医師に相談し下剤や柔下剤の処方を依頼しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回入浴できるように週間予定としてプランしています。どうしても入りたくない方に関しては時間を変え、人を変え無理強いしないように対処、入浴を見送る際は清拭に切り替えたり保清を維持しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合わせ入眠介助を行っています。歩行不安定も呼吸抑制も考えられる為、出来る限り入眠導入剤を使用しない自然な入眠をして頂いています。入眠を無理に促さず自由に過ごしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに沿って服薬チェックリストを用い間違いのない与薬をしています。お薬のセットは薬局または管理者が行い情報共有もリアルタイムで行っています。用法・容量に関して職員が細部までは把握できていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の今まで楽しみにしていたことを把握し、継続できるように整えること。楽しみを拡大できるように援助新たな楽しみを見つける。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候を参考に外出を計画している。長距離の歩行が可能な方、近所までの方等お体の耐久性毎に散歩を実施している。遠距離の外出は施設車両にて行っている。(11月～3月は感染症対策で自粛している)御家族様との外出も制限なく行われています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持に関しては基本的にはお持ち頂かない様にしていますが、どうしてもとの方は少額のお金をお持ちいただいています。日常品の買い物と一緒に選び購入しても頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じてTELやお手紙をカキたりすることができるよう援助しています。その旨をご本人様や御家族様にお伝えしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝今日部分について掃除をしています。時にはご入居者様のお手をお借りし清掃しています。転倒防止の観点から危険物（コード類、水等）を除去しています。音楽もみなさんのその時その時のご希望に音楽を用意してリラックスできる空間づくりをしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	掲示板にイベントや外出の写真とコメントを居れ皆さんで思い出せる様に配慮しています。ご入居者様の中でも気の合う合わないがあり共有部での席順を配慮、机によって趣味の内容が違う様に配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人や御家族様と相談し、使い慣れたなじみのものをおいて頂けるようお願いをしています。足元の障害や防火に問題がなければどのようなものでも受け入れています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お部屋が解らなくなる方には目線にお名前が見えるように部屋の前に表示させていただいています。危険物（足元・洗剤・刃物・紐類）が目につくよう、手が届かないように、刃物は数もチェックし安全な環境を提供。		